



北海道大学

若手研究者からの声

北海道大学 大学院歯学研究院 血管生物分子病理学

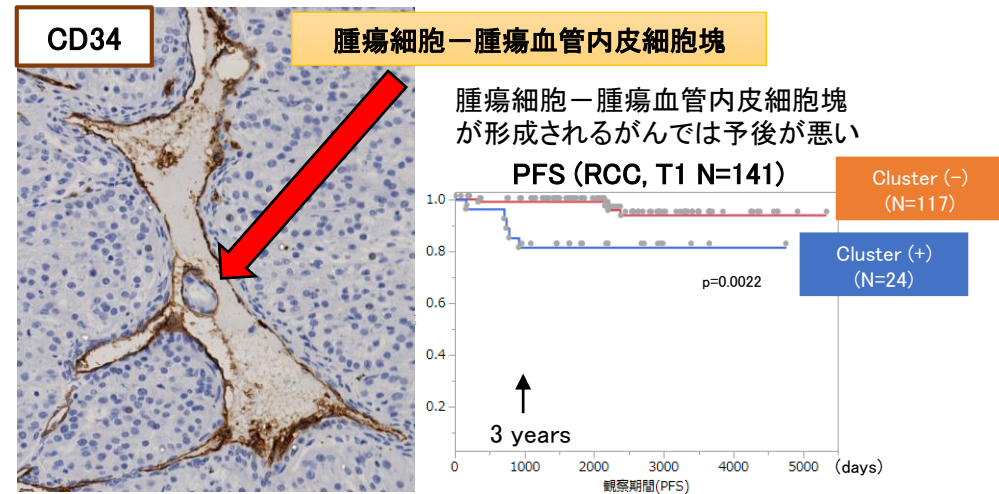
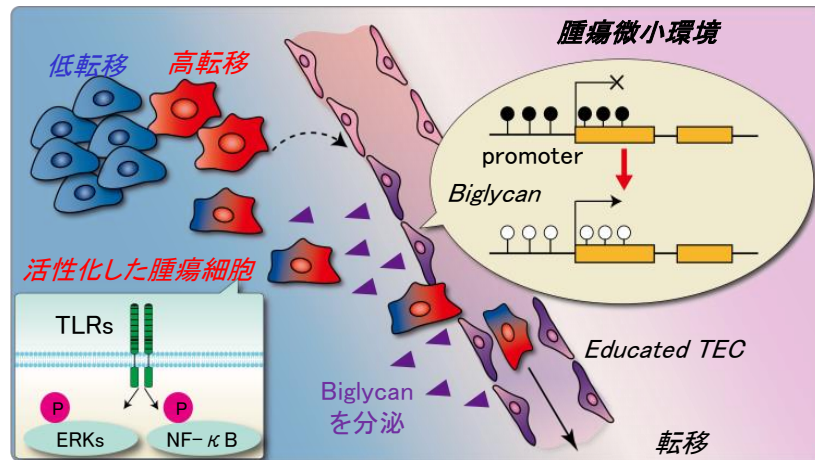
間石 奈湖

2021年3月5日

はじめに（自己紹介）

- 名前: 間石 奈湖 (まいし なこ)
- 所属: 北海道大学 大学院歯学研究院 血管生物分子病理学教室 (樋田 京子 教授主宰)・助教
- 研究内容: 腫瘍血管・がん微小環境のネットワーク解明とその制御
(腫瘍血管内皮細胞とがん細胞の相互作用によるがん転移促進に着目)

腫瘍微小環境で異常性を獲得した血管内皮細胞が
がんの転移を促進する (2016 Sci Rep)



- AMED採択歴: 2015～2018 革新的がん医療実用化事業・若手育成枠
「腫瘍血管ダイナミクスの解明と個別化医療を目指した革新的医療の開発」
- 学術調査官(研究振興局): 2020年10月1日～2022年9月30日
- 本日の発表に関して: 『若手視点での現状や課題, 今後期待すること』

『若手視点での現状や課題, 今後期待すること』

1. これまでのAMED次世代がん医療創生研究事業における若手公募の実績

2. 若手研究者からの声
 - ① 良かった点

 - ② 残念な点, 今後期待する点

1. これまでのAMED次世代がん医療創生研究事業における若手公募の実績

年度	公募タイプ	若手育成枠における採択課題数	その後の公募での採択(次世代がん)
H28-29	標的探索研究	22	うち, 8課題がその後の公募で採択 <ul style="list-style-type: none"> ・H30標的探索(一般)2課題 ・H30標的探索(若手)4課題 ・R2標的探索(一般)1課題 ・R2応用研究1課題
H30-R1	標的探索研究	21 (若手研究者優先枠33)	うち, 7課題がその後の公募で採択 <ul style="list-style-type: none"> ・R1標的探索(一般)3課題 ・R2標的探索(一般)2課題 ・R2標的探索(若手)1課題 ・R2応用研究1課題
R1-R2	標的探索研究	3	-
R2-R3	標的探索研究	5	-
R3-R4	標的探索研究	30課題中15課題が若手優先枠	-

支援中

2. 若手研究者からの声

① 良かった点

② 残念な点, 今後期待する点

について, 若手研究者 複数名よりon-lineでヒアリングを行いました

【対象者】

がん研究分野で活躍している30代後半～40代前半の若手研究者
AMEDがん若手ワークショップで知り合った若手研究者



- AMEDへの採択歴がない人(応募歴あり)
- AMED次世代がん, 革新がんへの採択歴がある人
- AMEDの他事業での採択歴がある人

が含まれています

2. 若手研究者からの声 ① 良かった点

《若手育成枠の設定について》

- AMEDに採択されること自体が業績になるので、若手育成枠の設定はありがたい
- 一般枠では太刀打ちできなくても、若手育成枠を設定してもらえたことで、がん研究を推進するきっかけをもらった。どんどん若手が活性化すると思う
- 1年のみの採択枠でも、大きな研究費獲得への経験を積むことができた。複数年にわたる大型の研究費も必要な一方で、まずとっかかりが欲しい若手にとっては、1年枠で裾野を広げて採択件数を増やすのもあってよいと思う



2. 若手研究者からの声 ① 良かった点

《採択された結果得られたもの》

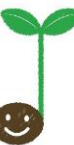
- **がん若手ワークショップ**で横のつながりができた。またそこから共同研究に発展した。COVID-19の状況下では開催は難しいかもしれないが、できればon-siteで開催してもらえると、活性化すると思う。
- 非臨床～治験など初めての経験について、**進捗管理**をしてもらったり、都度**相談**をすることができ、迅速に研究を進めることができた
- 次世代がんと革新がんを行ったり来たりして、新しいシーズの開発につなげることができた
- **技術支援**を使わせてもらえて、とてもありがたかった



2. 若手研究者からの声 ② 残念な点, 今後期待する点

《公募内容・方法について》

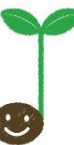
- ◆ **説明会**において, どういう課題を求めているのか聞きたい(そういう説明会もあったが, 公募要領を読んでいるだけのものもあった). 個別相談などがあると嬉しい. 領域の選び方なども含めて事前に相談したい
- ◆ **臨床サンプルへのアクセス**がないと採択されない. 臨床サンプルへのアクセス(共同研究体制の構築)などもサポートしてほしい. 若手だと事前にネットワークを構築することにはハードルがある
- ◆ 研究提案する時点で, 確実なもの(ある程度, 結果が想定されているもの)しか通らない. 若手の育成という点では, もっと**シーズ重視**にして, 長期的な支援という視点がほしい. **萌芽的な研究の枠**もあるとよいのではないか



2. 若手研究者からの声 ② 残念な点, 今後期待する点

《公募内容・方法について》

- ◆ 創薬ターゲットがある程度絞られていないと採択されない。創薬ターゲットを探るような課題も対象にして欲しい
- ◆ AMEDは出口重視というのにはわかっているが、がん研究を推進するAMEDの方で、もう少し基礎研究に力を入れて、シーズの育成をして欲しい。シーズの枯渇を避けるためにも、長期的な育成を考慮してほしい
- ◆ 非臨床試験や臨床試験のように先が見える研究と、シーズから始まる研究を分けて評価してほしい。シーズから始まる研究では、結果次第で方向性が変わるので、マイルストーンの設定などを細かく記載するのが難しいことがある。申請書の作成の段階で分けたほうが良いと思う



2. 若手研究者からの声 ② 残念な点, 今後期待する点

《公募内容・方法について》

- ◆ 学術変革Bのように、若手がネットワークを作って主体的に研究推進するシステムが欲しい。若手が対等でチームを作って研究申請するような公募があれば、5-10年などの長い目で見ると、よい研究ネットワークを作れると思う
- ◆ すそ野を広げて採択件数を増やしてほしい。初めから金額の設定が異なる公募もあってもよいのではないか
- ◆ 2年の設定は短い。2年の時点で中間評価をして、成果次第でさらに2年の継続の可否を判定するなどして欲しい(新規申請ではなく)
- ◆ 40歳代だと若手枠がないので、年配の先生と戦うのは現実的に難しい。いまからラボを立ち上げる人・まさに独立したばかりの人を支援してくれるような枠があると嬉しい

2. 若手研究者からの声 ② 残念な点, 今後期待する点

《技術支援について》

- ◆ 応募したもののサポートが得られなかった。技術支援を見込んで申請し採択されたのに、支援を得られなかったため残念だった。サポートを得られたらもっと研究が進んだと思う。初めから支援を希望している場合は、課題の審査の段階で、その評価をしてもらうというのもありではないか
- ◆ ドラッグスクリーニングなどがあると嬉しい



2. 若手研究者からの声 ② 残念な点, 今後期待する点

《予算について》

- ◆ 一部でもよいから基金化して、**年度をまたいで使用できるようにして欲しい**。施設にもよるとは思うが、年度で打ち切られると発注が1-2月までしかできない仕組みになっていて、研究がストップしてしまう。研究結果次第で、予算の前倒しや繰り越しをして進めたいことがあるが、年度打ち切りだとそれができない
- ◆ 予算の用途が使いづらい。**柔軟性**が欲しい。
- ◆ 結果次第で思いがけない展開になることがある。新たな方向性に進めるフレキシビリティが欲しいとともに、さらにそういう方向性への**追加配賦**などがあると嬉しい



2. 若手研究者からの声 ② 残念な点, 今後期待する点

《予算について》

- ◆ **人件費** (テクニシャンなど) にコストがかかる. 若手育成枠の費用だと雇用は難しい. 人件費は別に設定するなどの枠組みがあってもよい
- ◆ **備品の購入** が難しい. 共通機器の使用はもちろんだが, コアとなる機器は持っていないと現実的には不便で困る (時間外の使用など)



2. 若手研究者からの声 ② 残念な点, 今後期待する点

《書類・評価について》

- ◆ 書類が多過ぎるので, 簡素化してほしい
- ◆ Web上での入力など, 一括して管理するようなシステムがあると嬉しい
- ◆ 結果次第で思いがけない展開になることがある. 若い人ほど方向性が定まりづらい(可能性がある)が, AMEDだと大幅な修正がしづらい. 新たな方向性に進めるフレキシビリティが欲しい



2. 若手研究者からの声 ② 残念な点, 今後期待する点

《書類・評価について》

- ◆ 成果主義すぎる. 結果が出ないとダメという評価方法のみでは, 結果が出る研究に小さく収まってしまい, 評価のための研究になってしまう
- ◆ 特に基礎研究ベースだと, 結果次第で方向性が変わりうる. マイルストーン重視での評価のことを考え, 最初に設定したマイルストーンを達成するための研究という本末転倒なことが起こる. 領域などによって評価方法を変えたほうが良いのではないか
- ◆ 毎年論文を出すのには無理がある. 1年ごとの評価のみならず, 長い目で評価してほしい
- ◆ 採択額に応じた評価方法の設定などを考えてほしい

